

2023年度 中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2024年 2月 15日

学部・学年 スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻
応用スポーツ科学系 博士後期課程 1年

氏名 ガンスフ マラルエレデン

1. プロジェクト名

フィギュアスケートを通じた日本とモンゴルの国際交流

2. 活動期間

2023年 1月 28日 ~ 2023年 9月 30日

3. 主な活動場所

AICステップアリーナ(モンゴル、ウランバートル)

4. 参加者 1 名 (「7. 参加者名簿」に参加者氏名等を入力してください)

5. 予算・使用経費等 (足りない場合は各自で列を足してください)

費目	品名・内容	予算金額	執行金額
交通費	日本とモンゴルの往復航空券(マラル)	140,680 円	131,000 円
交通費	日本とモンゴルの往復航空券(日本人講師)	140,680 円	102,000 円
交通費	大学と成田空港の新幹線等(マラル)	25,200 円	27,860 円
交通費	大学と成田空港の新幹線等(日本人講師)	23,320 円	27,860 円
交通費	現地ホテルとリンクの往復タクシー代	28,000 円	27,523 円
宿泊費	現地ホテル滞在費(マラル)	225,194 円	194,304 円
宿泊費	現地ホテル滞在費(日本人講師)	112,597 円	176,640 円
保険加入料	海外旅行保険加入料(マラル)	8,910 円	7,500 円
保険加入料	海外旅行保険加入料(日本人講師)	5,340 円	14,000 円
謝金	日本人講師への謝金	80,000 円	80,000 円
謝金	現地での通訳への謝金	50,000 円	50,000 円
バッファー	為替の変動などを考慮したバッファー	50,000 円	0 円
	合計	889,921 円	838,687 円

6. プロジェクトの活動報告

◆プロジェクトにおける活動内容と目標

<活動内容>

本プロジェクトは、フィギュアスケート先進国である日本、なかでもフィギュアスケートの聖地といえる中京大学から、日本人講師を派遣し、フィギュアスケート発展途上国であるモンゴルの子ども達を対象に短期間のスケート教室を開催し、技術的・人的支援活動を行う。

<目標>

本プロジェクトの目標は、フィギュアスケートの発展途上国であるモンゴルの子ども達への技術的な支援を行うことで、国際的なスケート競技の価値を高めること、国際的な平和への寄与、日本人スポーツ指導者の国際的地位の向上、現地の方々の親日派の育成である。

また、スケート技術習得レベルについては、日本スケート連盟バッジテストにおける初級～1 級程度の技術の習得を目標とし、スケートへの関心・興味を持つきっかけとなり、継続的なフィギュアスケートの発展に貢献することが期待される。

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

<中間報告時に抱えていた課題>

中間報告の時点で活動を終了したため、特になし。

<対応結果>

◆プロジェクトの目標達成状況（活動内容等を具体的に記入してください）

<達成状況>

本プロジェクトの達成度について、90%以上の成果を得られたと自負している。

初日と比較して、最終日に実施した発表会では、子ども達は氷上に慣れ、余裕のある顔つきで各々習得した技を披露した。特に、上級クラス受講者の過半数が1回転ジャンプを習得し、目標としていた技術レベルを達成できたと言える。

また、本プロジェクトの終了後、受講者のうち4名が継続的な指導を希望し、2週間から45日間の期間で来日し、日本人講師による指導を受けた。今後も選手を目指してフィギュアスケートを学ぶ意思があり、将来的には大会に参加したいと述べている。このように、本プロジェクトの開催は、モンゴルの子供達に多くの希望を与え、国を跨ぐほど大きな行動力を生んだ。

これらのことから、本プロジェクトの目標であったスケート技術指導の提供および継続的なフィギュアスケートの発展に貢献は、十分に達成できたと考えられる。

自己評価による達成度： 95 %

◆改善点、やり残したこと

本プロジェクトの実行にあたり、いくつかの改善点・反省点が挙げられる。

まず、予算算出について断定的な金額を見積もることができず、執行時の変動が大きかった点である。海外とのやり取りであったため、モンゴルトウグルグ⇄日本円の為替の変動などの理由も挙げられるが、予算計上後の滞在日程の変更など大幅な変動があったことは改善すべき点である。この点に関して、モンゴル側スケートリンクとのやり取りを綿密に行うことで、確約した日程を確保することができ、事前により明確な予算算出ができたのではないかと考えられる。

次に、本プロジェクトの活動内容について、単発的な開催であり、1年間の活動期間を通じた継続的な活動に至らなかった点である。国境を超えた活動であることなどから、滞在費・交通費が大きく、複数回の活動は困難であったが、オンライン指導などを行うなど、より柔軟なアイデアで指導回数を増やすことができたのではないかとと思う。

今後の活動の活動では、これらの反省点を生かし、計画的かつ積極的にコミュニケーションをとり、より潤滑に物事を進められるようにしたい。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気づきを得たか

本プロジェクトの実施にあたり、下記の気づきを得ることができた。

まず、奨励金をいただいてプロジェクトを実施していることを常に念頭におき、すべてのことに責任を持って取り組むことが重要であると予算執行のたびに認識した。多額の金額を執行するにあたり、当然ながら、実感することであり、無事に達成した時は、大きな自信を得ることができた。

また、プロジェクトの実施にあたり最も苦労したことは、モンゴルと日本の仕事のペースのギャップである。何事にも用意周到な日本に対して、モンゴルは人口約 300 万人程度の小さな国であるが故に、形式にこだわらない臨機応変さが特徴であった。社会的な背景の違いがある 2 国の方々をプロジェクトに巻き込むことは、柔軟さと相互理解が最も重要であると気づくことができた。

◆今後チャレンジしていきたいこと

(例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)

私は、モンゴル初のフィギュアスケート選手として活動した自身の経験を後輩に繋げること、両国の橋渡しの役目を果たすことという大きな目標がある。そのために、博士課程での研究活動および現場での実践指導における応用を学びたいと考えている。

本プロジェクトの応募も、目標に向けた大きなマイルストーンであった。案が採用され、無事に達成できたことは大きな自信となり、一人では開けなかった道を開いてくれた。

また、実施したことにより、今後の活動においても大きな糧となるマインドを心得ることができた。プロジェクト終了後も、継続的に生徒と関わりを持つことができ、日本とモンゴルを行き来して選手育成に携わることができている。これは、期待以上の成果であり、自身の目標に大きく貢献される結果となった。

研究活動と選手指導の両立は簡単ではないが、やりがいのあることで忙しく過ごしていることが大変幸せである。今後も、研究活動と選手指導のバランスを見極めながら、積極的に物事に挑戦していきたい。

本プロジェクトを実施するにあたり、豊田キャンパス学生支援課木村様をはじめ、多くの方にご指導ご支援をいただき無事に達成することができました。改めて感謝を申し上げます。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。

教室開催地

AIC Steppe Arena (AIC ステップアリーナ)

住所：Archives street 761, 8th khoroo, Ulaanbaatar, Mongolia

HP：https://steppearena.mn/el/

概要：2021年に完成したモンゴル初の国際規格アイスアリーナ。アイスホッケー世界選手権が開催されるなど、モンゴルの氷上競技の中心地となっている。



AIC Steppe Arena 外観。都心から約15km離れた郊外の開発地区にあります。

招待講師の紹介

若松 詩子(Utako Wakamatsu)先生

女子シングル日本代表活躍後、2002年よりカナダ人ジャン＝セバスチャン・フェクトーとペアを組み、2005年世界選手権8位、2006年四大陸選手権2位になるなどの活躍。現在は名古屋を中心に技術・振付指導を行っている。



9月11日

[スケジュール]

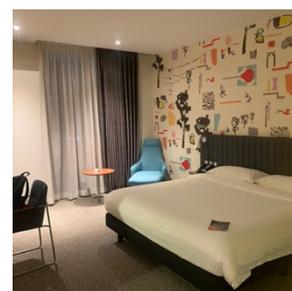
マラル：大学からモンゴルへ移動日

[活動内容]

予定通りの時間でモンゴルに無事に到着。到着した時の気温は3度。空港からタクシーでステップアリーナに挨拶に伺った。アリーナは入り口・リンク中央のスクリーン・360度のスクリーンなどを活用して至る所にポスターを貼って宣伝をしてきていた。



夜中にリンクに到着。アリーナ外観。



滞在したホテルの部屋の様子。

使用された広告→
「フィギュアスケート教室」の題名で募集期間・連絡先などが記載されています。モンゴルではFacebookが主流なので、会場・Facebookを中心に宣伝を行ったそうです。



9月12日

[スケジュール]

アリーナスタッフと打ち合わせ、教室初日開催。

15:00~17:00 初級クラス

17:00~19:00 中級クラス

19:00~21:00 上級クラスを開催。

若松先生が合流。



教室初日の初級クラスの様子。



若松先生がモンゴルに到着。チンギスハン空港での写真。

[教室指導内容]

教室は初級 12 人、中級クラス 10 人、上級クラス 14 人、合計 36 名の受講者が教室に参加。

初級：ペンギン歩き、正しい転び方、ひょうたん、氷に慣れる遊び

中級：氷に慣れる遊び、ひょうたん、スネーク、両足ジャンプ

上級：ストローキング、6 種類のジャンプ踏切の復習、フリープログラムの曲かけ練習

を中心に指導。初日は、受講者のレベルを確認しながら指導を行った

9月13日～19日

[スケジュール]

15:00~17:00 初級クラス 17:00~19:00 中級クラス 19:00~21:00 上級クラス



[教室指導内容]

若松先生・通訳の Sonor Anujin(ソノル・アヌジン)さんと 3 人で教室を進行。通訳さんはスケート未経験だったが、スケート靴を履いて氷上で手伝ってくれた。

初級クラスは低学年が多かったため、滑ることを楽しんでもらえるように指導を行い、両足跳びや後ろ向き滑走を怖がることなくできるようになった。中級クラスには技術練習の導入を行い、フォワードクロス、アクセルやトゥループの半回転ジャンプをできるようになった。

上級の受講者は各自フリープログラムを制作し、プログラムを滑り切る練習・6 種類の 1 回転ジャンプ・スタン

ドスピンなどを指導した。



9月20日

発表会の様子

15:00~17:00 初級クラス：♪「Under the sea」の音楽に合わせて、発表会を行った。演技を覚え、一人で自信を持って滑ることを目的とした。技術的には、バニーホップ・両足ジャンプなどの簡単なものであったが、楽しんでいる様だった。今後も継続して滑るきっかけになればと思う。

発表終了後には、一人ずつ参加賞を授与し写真撮影を行った。



17:00~19:00 中級クラス：♪「Sound of music」の音楽に合わせて、半回転トゥループジャンプ・足を後に上げるスパイラル・クロスなどフィギュアスケートの基礎となる動作を組み込んだ演技を披露した。初級クラスよりも難度の高いことにも挑戦でき、成長を感じられた。小さなことでもできた！と感じられると、転ぶことを恐れずに新しいことに積極的にチャレンジできるようになった。日に日に顔が明るくなっていたのが印象的だった。



19:00~21:00 上級クラス：受講者のほとんどが去年の教室にも参加していたため、個々のプログラムを制作し発表することができた。初めてのプログラム披露に緊張していたが、全員が素敵な笑顔で晴れやかに発表を終えた。フィギュアスケートの楽しさはプログラムを演じてこそ感じられるものも多くあるので、成否よりも経験できたことが素晴らしい機会になったと思う。一から教えてきた子どもたちなので、演技を見て本当に嬉しくなった。今後もこの活動を繋げていきたいと思った。

発表会の動画：<https://youtu.be/TXXXH25kl0o>





9月21日

[スケジュール]

11:00 ルール講習会@2階ミーティングルーム

[活動内容]

発表会終了後、21日中に帰国できる便がなかったため、講習会を企画した。内容は、主に競技会ルールと日本スケート連盟バッジテストの紹介であった。大会に出るにあたって必要なプログラム構成やレベルの取り方などをプレゼンした。講習会後には、また、今後のモンゴルでのフィギュアスケート発展のためにどんな可能性があるか、ステップアリーナの方々と意見交換を行った。教室の継続を望む意見をたくさん頂いたので、またできたらいいなと思った。



9月22日

明朝に空港に向かい、日本に帰国。

7. 参加者名簿（足りない場合は各自で列を足してください）

番号	学籍番号	学年	氏名	備考
1		博士後期1年	ガンスフ マラルエレデン	
2				
3				